

令和元年度 諏訪二葉高等学校同窓会 諏訪支部総会報告

諏訪九地区合同支部総会が5月18日、中洲の風樹文庫にて30名出席のもと開催されました。

各支部長紹介のあと、経過報告、その後同窓会長より各支部の活動の様子等紹介を交えた挨拶があり、続いて校長先生より資料に基づいて二葉生の様子や活躍が報告され、加えて今後の高校再編等の話がありました。

続けて「岩波茂雄と風樹文庫」と題して、岩波弘之氏を講師にお迎えして講演いただきました。

日本を代表する出版人、岩波書店の創立者 岩波茂雄の出身地 諏訪市中洲の地に1947年5月風樹文庫が村の青年らの良書を読みたいという熱意に応じて誕生したこと、その経緯、名前の由来、現在に至るまでの歩み等々お話いただきました。

長い人生、困難に直面することがある、いろいろ考えて打破しようと努力する、その考える力の一になる一つに読書があると思う。身近に図書館があったことによって役立ったことがたくさんあったと自身の経験を振り返っておられました。

中洲の地域にあって地域に根差したすばらしい宝物であることに気づかされたお話でした。

風樹文庫と茂雄を学ぶ

諏訪二葉高同窓会の諏訪支部9支部研修会
諏訪二葉高同窓会の諏訪支部9支部の合同研修会は18日、同市中金子の信州風樹文庫で開いた。同図書館元職員の岩波弘之さんが「岩波茂雄と信州風樹文庫」と題して講演。会員約30人が講演と館内見学で、岩波書店を創業した中金子出身の茂雄と同館の関わりなど深めた。

講演で茂雄の生い立ちや、諏訪美科中学（現諏訪清陵高校）4年の時に村の伊勢講の代参、夏目漱石の「こころ」の初版発行のエピソードなどの紹介があった。「二高、東大だ。」

大に進んだが留年したので同級生が多く、人脈で夏目漱石の信頼を得られた」と話した。合同研修会は2年に1回開き、地場産業の見学や講演会を実施。今回は二葉高OBの作家平林たい子の同市内の記念館も訪問した。地元にも行く機会が少ない文化施設で見聞を広めた。四ツ葉支部長の高木美鈴さん（高21回）「四賀」は「先班のことを知らないのはもったいない。学んだことを発信したい」と話している。（増沢伸）

信州風樹文庫で地元の偉人を学んだ諏訪二葉高同窓会の諏訪市内9支部の合同研修会



長野日報 5月19日

そのあとは、希望者が偉大な諏訪の生んだ女流文学者・母校の先輩「平林たい子」の記念館を巡りました。諏訪高女の先輩とは存じ上げていたものの、恥ずかしながら細かいことを何も知らなかった私が、一時でも女史の人生を垣間見ることができた貴重な時間を持てたこと、有意義な総会だったこと、ご報告いたします。

自分が二葉に在学した時期に波乱の人生を閉じていたこと、そして記念館が創設されていたこと、いまさら気付く程、無知だった自分に愕然たる思いでした。

監事 有賀直子記